

## 勝井農機より

### 畦塗機作業をされる方に注意確認



#### 畦塗機は・・・

現状の畦の土と畦際にある土を一旦、掘りほぐしたものをアゼの『斜め』『角』『上面』を押しえ込んで固めていく機械です。

#### 但し知っておかなければならない事が・・・

元々のアゼ自体が極端に低く、そもそもの土の量が少ない場合は、アゼに押しえ込むための土とアゼの上へ載せる土の量が共に不十分であるためにアゼに高さを求める事や締まりのあるアゼを作るのが難しくなります。

さらに一旦、畦塗機作業を終えたアゼに再度続けて塗り直す事(追加で土を上げて押しえる事)は極めて困難です。

(※塗り直ししようにも、すでに土が上がって無くなっているため)そうした場合は期間を空けて翌年も畦塗りをしっかりとしたアゼを作り上げる必要があります。

その他に畦塗機作業をする際に、とても重要な要素として『土の水分量』が挙げられます。

土の水分は乾きすぎてもダメ、湿り過ぎてもダメで両方のケース共に十分満足の出来る状態のアゼにならない場合がございます。乾きすぎていると塗った直後は大丈夫でも数日経過すると塗ったアゼにヒビが入りやすくなります。反対に湿り過ぎていると土の重みと粘りで十分土が上がらず、土の押しえ込みも不十分となりこちらも崩れやすい原因となります。作業後の大雨や長雨も悪影響となるので、時期を見計らうことが大切です。



実際の作業をするにあたり、注意点として畦塗機を使って作業される場合は圃場が耕うんされていない状態(耕す前)に行います。少なくともアゼ際約2m弱くらい未耕地の部分を設けておいて下さい。(※耕うんした状態ではトラクタが沈んで動きにくくなったり、スリップして上手く進まなかったりする場合があるため)

作業スピードは超低速、出来るだけゆっくり進むことで土をこねる回数と土をアゼに押しえ込む回数が増えるのでより効果的です。ちなみに畦塗機は重量作業機ですが、実際に作業する際、トラクタのエンジンの回転数は全開にする必要は無く2000回転位までで(圃場の状態による)行い、畦塗機の方を回転させるトラクタのPTOLレバーの変速も常時1速のみで使用するのが基本です。

最後に畦塗機を装着している際は、通常のロータリ作業機を装着している時よりかなり重くなる上、前後・左右のバランスが不安定になりやすいため、狭い場所、ヒトやモノの近くでの取り回しには特に注意が必要です。特に圃場への出入りの際の転倒事故が多く、路上走行時に畦塗機を格納状態(必ずセンターへ戻す)を忘れないように気をつけてください。

一般的に畦塗機はトラクタの後ろに取り付けて作業する機械です。非常に大きくて重い重量作業機ですが一部小型トラクタにも適用する畦塗機もあります。



アゼの除草や防草に除草剤やマルチシートを使用しているとアゼがどんどん軟弱になり低くなってしまいます。(アゼの崩落やモグラの被害も増加)



畦塗機作業は非常にゆっくりとしたスピードで行うため、トラクタのタイヤのスリップ、圃場やアゼの固さや抵抗の強弱により常にまっすぐに行かないことがあります。(※抵抗が強い場合もですが、元のアゼが低くほとんどない抵抗の小さい場合でも直進しにくいケースもあります。)



畦塗機作業の問い合わせで非常に多いのですが、畦塗機を施せばどんな条件下においても万能に畦塗りが出来ると誤解されている場合が多いようです。畦塗りは作業するタイミング(時期)と土の状態や水分量が強く影響するため、自身で一番最適なタイミングで作業するために個人で所有される方が増えてきております。機械がいくら進歩しているとは言え、農業はどこまでいっても自然を相手にしているということを忘れてはいけません。



畦塗機は主に冬場や春先までの時期にする事が多く、まだ耕うん作業に入る前の段階で作業します。それとアゼやアゼ付近にあまりに草が残っていると、作業後しばらくして草が起き出してせつかく塗ったアゼを突き破って潰して出てくる場合がありますので、ある程度草のない時期を選びましょう。



安全のためにトラクタに畦塗機などの重量作業機を装着する際は、トラクタの前方のバンパー部分にウェイト(重り)を出来るだけ多く取り付けて作業することをオススメします。(別売り)

